

JWF ファンド 2023の完了プロジェクト概要

Shabaan小学校の給水改善(ウガンダ)

- 実施団体: Centre for Women and Youth Empowerment(CEWAYE)
- 実施地: ウガンダ Isingiro県 Nakivale refugee settlement
- 費用: 1,933ドル (JWFファンド1,300ドル、寄付金133ドル、団体400ドル、受益者100ドル)
- 受益者数: 1,141人(男93人、女146人、子ども902人)
- 実施地の水問題:

Nakivale難民居住地のNew Congo共同体は、難民キャンプ・ホストコミュニティの住民と学校が同じため池を水源としていた。Shabaan小学校(Shabaan Social Progressive Initiative Primary School (SSPI))はこの地域唯一の学校だが、ため池から4Km離れた所にあり、生徒たちは毎日、2・3時間水汲みを行っていた。水汲みによる女子学業時間・安全の確保が求められていた。校内に安全な水へのアクセスはなく、衛生環境は劣悪で、生徒や地域住民には水系感染症が頻発していた。

【実施前】



ため池から水を汲む生徒たち

【実施中】



雨水貯水槽搬入

【実施後】



引渡記念式典での
足踏み式手洗い器

- 主な活動内容: 雨水貯留システムの設置、足踏み式手洗い器2台の設置、1200人への持続可能な水利用研修と地域共同体住民によるチームへの雨水貯留システム維持管理と補修の習得訓練等。
- 持続可能な活動: 参加型モニタリングと評価手法を導入して学校側と住民の自主性を促し、目的達成と持続をする。

JWF ファンド 2023のフォローアップ調査結果

Shabaan小学校の給水改善（ウガンダ）

【現状】

- ・2025年9月26日に現地訪問した。設置から2年経過しても雨水貯留施設は良好な状態を保っており、目立った構造上の損傷や漏水は見られなかった。雨樋、豎樋、貯水槽はすべて健全で、降雨時には問題なく水が集められ、流れている。
- ・雨水貯留施設は校長率いる学校維持管理チームと地域管理担当者が適切な定期的な点検と清掃な管理下にあり、収集された水は清潔で安全に使用されていた。
- ・生徒はプロジェクトの研修どおり、雨水を主に飲用・手洗い・清掃に使用していた。教師は水利用を監督して無駄使いを減らし、衛生クラブは手洗い設備の適切な利用を支援していた。地域の担当者は、雨季の前に定期的に貯水槽と雨樋を清掃していた。施設は日常的に衛生状態改善と時間厳守の役に立っていた。地区保健局も、優れた衛生基準を維持していると称賛した。地域住民は協力して、施設を維持・保護していた。
- ・雨季ごとに水質検査が行われ、学校は維持管理費用に小規模だが予備資金を設け、CEWAYEは時折訪問して技術的な助言を提供してきた。

【変化】

- ・雨水貯留施設によって、生徒や地域住民の衛生習慣は改善された。本プロジェクト前にはなかった、食事前やトイレ使用後の手洗いが生徒たちに習慣化していた。学校の敷地やトイレは目に見えて清潔になり、貯水槽フタ閉鎖や清掃状態は生徒たちが確認していた。
- ・近隣のNakivale保健出張所によると、下痢やチフス症例が減った。Isingiro地区保健局のMrs. Asiimire Alsonはフォローアップ調査で「以前と比べると、SSPI 生徒から下痢の症例がほとんどなくなりました。安全な水へのアクセスが改善され、水系感染症が明らかに減少しています。」と述べた。改善は、生徒の出席率や健康状態向上にも寄与している。

【その他】

- ・2024年、CEWAYEはIsingiro地区保健局とともに、SSPI校に2基大型貯水槽を寄贈、恒久的な手洗い施設を建設した。2025年はGiving Joy USAとの提携でNakivale難民キャンプ内3小学校で衛生セッションや施設の清掃修理を実施した。
- ・JWF ファンドプロジェクトの成果により、政府や地元のロータリークラブからの支援を得て、新しい教室棟の建設が実現した（P4写真参照）。在籍生徒数増加により、新教室棟向けの水貯留システムが必要で新たにJWF ファンドの支援を受けたい。
- ・CEWAYEはSSPI小学校の水施設を持続的に運営し、ウガンダの難民居住区全体で同様のWASHプロジェクトを拡大するための活動を続ける決意である。



雨樋付校舎



2023年設置貯水槽の現状、左に2024設置手洗い施設



雨水貯留施設機能調査



生徒の衛生習慣調査

JWF ファンド 2023のフォローアップ調査結果

Shabaan小学校の給水改善(ウガンダ)

現場からの声 (抜粋)



Mr. Kangume Elias (63歳 地域共同体首長)

Mr. Kangumeは、雨水貯留施設プロジェクト完了以降、地域住民の衛生習慣が大きく改善したと述べた。「プロジェクト以前は、トイレの後や食事の前に手を洗う人はほとんどいませんでした。今では、生徒たちが手を洗う習慣を身につけ、家庭にも広がっています」と彼は指摘した。「ある地域視察で、子どもたちが年下の兄弟に正しい手洗いの方法を教えているのを見ました。以前はこんなことは全くありませんでした。」「SSPI小学校の生徒たちは以前よりも活発で健康そうに見えます。もう胃腸の不調で授業を欠席することはありません。母親たちは子どもが病気につかることの回数が少なくなったと言っています。」このプロジェクトは地域住民の結束と協力を強化した。女性たちは食料販売、裁縫、園芸などの収入を得られるようになり、少女たちは学校で過ごす時間が増え、出席率や学習成果が向上した。Mr. Kangumeは、地域住民が手の届く場所に清潔で信頼できる水源を持ったので、より希望を持ち、誇りを感じていると述べた。



Ms. Nansubuga Annet (42歳、水施設管理委員会委員長)

Ms. Nansubugaは、委員会が各メンバーに明確な役割を手分けしてチームとして活動していると説明された。たとえば、乾季の始まりにある委員が保護者を動員して教室の屋根から雨水を集め、貯水槽を補充した。Ms. Nansubugaは、記録管理と維持管理事項を学校や CEWAYE に伝える役割を担っていた。彼女は、この施設への好意的なフィードバックを得ていた。ある母親は委員会へ娘が水に関連する病気で授業を欠席しなくなったため、学業成績が向上したと伝えられた。「施設を拡張し、近隣家庭が恩恵を受けられるようにしてほしい」という要望もあるそうだ。



校長先生との聞き取り調査



Mr. Mose (38歳、SSPI 小学校長)

Mr. Moseによると雨水貯留施設は既に学校生活の一部で、生徒は水を飲み、手を洗い、教室の清掃にも利用している。「私たちにとって、もう単なる貯水槽ではありません」と彼は述べた。「尊厳と健康の源です。前学期では、水汲みに行かずに授業や衛生教育ができました。」さらに、こここの水は清潔で味も良く、常に利用可能なので、みんなが自分の学校に誇りに思っていると付け加えた。プロジェクトでのWASH研修後、教師たちは毎週短時間の衛生指導を行い、手洗いや安全な水の保管を指導し続けてきた。生徒衛生クラブは、トイレ清掃状況の点検や手洗い設備の水補充を続けていると述べ、「生徒たちは家庭でも親に手洗いや水の清潔保持を促すようになっています」と付け加えた。施設による前向きな変化として、水系感染症の減少、出席率向上、彼自身の家族も間接的に恩恵を受け、雨季の間は近隣住民による水利用を許可していると述べた。「私たちはより安全で清潔、そして地域としての結束も強く感じています」と彼は付け加えた。「このプロジェクトは単に水を提供してくれただけではなく、時間、健康、そして希望を取り戻してくれたのです。」

JWF ファンド 2023のフォローアップ調査結果

Shabaan小学校の給水改善(ウガンダ)

現場からの声 (抜粋)



Ms. Imani Gloria (10歳 生徒)

Gloriaは恥ずかしそうに微笑みながら、学校で毎日雨水貯水槽の水を使っていると話した。「お水を飲むだけでなく、手も洗います」と言った。「以前は水を汲みにため池まで行って、授業に遅れたり、とても疲れて帰ってきました。」彼女はさらに、雨水貯水槽の水は清潔で冷たく、安全に使えそうに感じられると付け加えた。「もう以前のようにお腹が痛くなるのを怖がるのはなくなりました。授業に集中してしっかり勉強します。」Gloriaは、食事の前やトイレの後には必ず石鹼で手を洗うと学んだと説明した。「先生が正しい手の洗い方を教えてくれました」と彼女は言いました。「家でも、兄弟姉妹に手を洗うように言っています。」また、毎朝教室の近くにある手洗い用ジェリカンに水を継ぎ足すお手伝いをしていると誇らしげに話した。「学校を清潔にしたいので、手伝うのが好き。」「もうずっと病気にかかっていることはなくなりました。以前は下痢で授業を欠席していたこともあります。母も私が元気そうになったと言っています。雨が多いときは、校内の水を使うこともあります。」と嬉しそうに話した。また、以前のように水汲みに何時間もかけなくなつたので、友達と遊んだり本を読んだりする時間が増えましたと付け加えた。「毎日清潔なまま学校に来て学べるので、とても幸せです。」



Mr. Mengerere Sam (12歳、生徒)

Samは、毎日雨水貯留施設を利用して、特に飲み水や教室の掃除に使っていると話した。「水は清潔で近くにあるので、とても便利です」と彼は言った。「以前は遠くのため池まで行って、汚れた水のときもありました。今は簡単で、蛇口をひねるだけです。」運動の時間や暑い日にはいつでも水を飲めるので、気分がリフレッシュできると付け加えた。「スポーツのときも、もう家からジェリカンで運ばなくていいです。」Samは誇らしげに、学校衛生クラブの一員だと話した。「私たちは、貯水槽を清潔に保ち、フタを閉じると学びました」「他の生徒たちに正しい手の洗い方も教えています。」彼は、この学びを家庭でも活かしていると話した。「家のジェリカンもフタをして、汚れたコップを入れないようにしています。両親も、役に立つことを学校で学んだと分かって話を聞いてくれます。」Samは、もう誰も水汲みをせず早く登校するようになり、授業も時間通り始まるようになったと話した。「以前のように病気になることもありません」と彼は付け加えた。「前学期はクラスメイトでお腹の具合が悪くて学校を休む子はいませんでした。」また、両親も喜んでいて、勉強により多くの時間を使うようになったと話した。「私たちの生活は、とても良くなりました。清潔で健康的で、学校に誇りを持っています。」



新教室棟。まだ雨水貯留施設の雨樋がない



いつ手を洗いますか?との調査質問に答える生徒たち